

第145回直木賞受賞作

ロケットを飛ばすには、大田区の町工場が開発した先端技術がどうしても必要だった——本書は、ひとつの特許をめぐり、夢や思惑をぶつけ合う男たちの人間模様を描いた社会派ドラマである。技術と誇りを武器に闘おうとする町工場とそれを力で押さえつけようとする大企業の駆け引き、夢と現実の間で揺れる町工場の社長と社員たちの心理など、臨場感あふれる描写は、緊迫した物語の世界へ読者を強く引き込んでくれる。それぞれに熱い想いをもちた登場人物の姿は、働くこと、生きることに何が大切かをあらためて考えさせてくれるに違いない。



「下町ロケット」
池井戸潤（文学部〈昭和61年〉法学部〈昭和63年〉卒）著
小学館／定価1785円（税込）

技術への誇りをかけた男たちの想い



慶應義塾に関連した出版物や
教職員の最新著書などを中心に、
本に関する情報をお届けします。

（ここでご紹介している本に関するお問い合わせ等は
各発行所または書店にお願い致します）

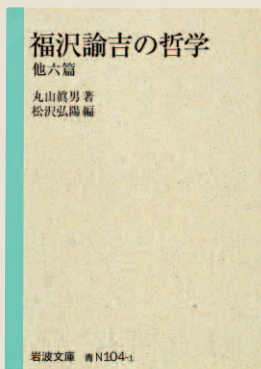
教職員執筆の最新刊より

- 菊澤研宗（商学部教授）著
『なぜ「改革」は合理的に失敗するのか 改革の不条理』 朝日新聞出版 1,575円（平成23年3月）
- 榊博文（文学部教授）著
『日本人は何故大人しい？ —「陰陽」で読み解く「日本人」—』 おうふう 2,100円（平成23年5月）
- 福岡正夫（名誉教授）著
『経済学 わが道』 慶應義塾大学出版会 3,990円（平成23年7月）
- 牛場暁夫（文学部教授）著
『「失われた時を求めて」交響する小説』 慶應義塾大学出版会 2,520円（平成23年7月）
- 久我俊二（法学部教授）訳
『詐欺師 ジョエル・ソープの変貌』 慶應義塾大学法学研究会 5,460円（平成23年7月）
- 鈴木孝夫（名誉教授）著
『しあわせ節電』 文藝春秋 1,200円（平成23年6月）

（編著者の職名は発行時のもの）

本書には、著者が記した福澤先生についての論説が7篇収録されている。先生が論じた内容の背景にある「方法」に集中したアプローチは、時代や政治状況などを超えた思想の普遍的な意味を見事に引き出している。先生の言説への理解に、新しい視点を加えてくれる一冊だ。

福澤先生に関する研究は、政治的な役割や個々の時事問題への主張を対象とするケースが多いが、他の研究者に対し著者は、言説の底にある「知性の行使の方法」に目を向けた「特殊な観点」をもっていた。



丸山眞男著 松沢弘陽編
『福澤諭吉の哲学 他六篇』
岩波文庫／定価798円（税込）

慶應義塾の一冊